

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4170300174
法人名	有限会社 お元気村
事業所名	グループホーム お元気ハウス
所在地	佐賀県鳥栖市字門戸口1399番地1 (電話) 0942-84-3216

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年12月14日	評価確定日	平成 20年1月19日

## 【情報提供票より】(平成19年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	17人, 非常勤 5人, 常勤換算 9.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	無 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	72 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松崎記念病院・門司歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鳥栖市の中心地に位置する2ユニットのグループホームである。入居者にも分かり易いように、各ユニットの玄関のドアが異なるつくりになっている。  
 入居直後の馴染みの関係を築くための暫定プラン、入居者や家族の希望を最大限取り入れた介護計画の作成、状況の変化や1週間ごとのチェックによる、本人や家族の意向に沿った必要な介護計画の見直しなど、充実した介護計画のもとに個人個人に合ったケアが実践されている。  
 家族が独自に発足した家族会が、月に一度、草とりやワックスかけなどの支援活動を自主的に行ったり、職員が家族の一員として笑顔で接するなど、入居者・家族・職員の間には家族のような信頼関係が築かれている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果、課題点が指摘されると、評価会議において期間を定めた改善計画を立て、期間経過後再評価するなど、サービスの質の確保に最大限活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全職員で行い、課題点があると、評価会議において期間を定めた改善計画を立て、期間経過後再評価するなど、サービスの質の確保に向けた積極的な取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	民生委員や家族の代表などをメンバーとする運営推進会議では、事故報告・苦情(意見・要望)報告や行事などの報告を行い、様々な意見交換をする中で、取り上げられた検討事項や懸案事項について、職員会議やユニット毎の会議で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱の設置、苦情(意見・要望)ノートの活用など、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。また、家族が独自に発足した家族会の会議の中で出された意見・要望を代表者から伝えてもらい、全職員で解決方法を考えるなど、積極的に質の向上をめざす取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事としての会合や地域の溝掃除には職員が、神社掃除には入居者も参加したり、入居者と一緒にグループホームの広報誌を近隣や公民館に配るなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者や家族の希望を最大優先とし、ケアプランの徹底、職員の笑顔でのチームケアの対応をめざした独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲示し、常に意識づけがなされている。また、入居者や家族の希望を取り入れた充実したケアプランへの取り組み、職員の笑顔でのチームケアの対応など、理念に基づいた日々のサービスが提供されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事としての会合や溝掃除に職員が、神社掃除には入居者も参加したり、入居者と一緒にグループホームの広報誌を近隣に配るなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や自己評価に課題があれば、評価会議で期間を定めた改善計画を立て、期間経過後再評価するなど、サービスの質の確保に向けた積極的な取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員などをメンバーとする運営推進委員会では、事故報告・苦情(意見・要望)報告や行事などの報告を行い、意見交換をする中で、取り上げられた検討事項や懸案事項について、職員会議やユニット毎の会議で話し合い、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月開催されている地域内のグループホーム連絡協議会での関係づくりはみられるが、働きかけをしても、市の意向で運営推進会議の不参加など、それ以外に行き来する機会はない。	○	今後、さらなる積極的な働きかけにより、運営推進会議を含め行き来する機会をつくり、市と共にサービスの質の向上への取り組みが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の心身の状況については、毎月の便りで報告すると共に、必要に応じて家族の訪問時に行うなど、きめ細かい報告がなされている。また、年3回の「お元気村便り」で、日頃の暮らしぶりなどが写真を交えて伝えられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情(意見・要望)ノートの活用など、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。また、家族会の会議の中で出された意見・要望を代表者から伝えてもらい、解決方法を考えるなど、積極的に質の向上をめざす取り組みがなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限に抑えるよう努められている。離職がやむを得ない場合も、1ヶ月の引き継ぎ期間を設け、スムーズに移行できるような配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力・経験などを考慮して、勤務表の中に研修を盛り込み、それらの研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。また、全国グループホーム協会主催の事例研究発表に取り組んだり、毎月、テーマを決めて少人数制の勉強会を行ったりしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとの相互研修や地域グループホーム連絡協議会において、同業者との交流持つことにより、サービスの質の向上をめざしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が無理なく生活できるように、グループホームの雰囲気を感じていただくため、入居前に見学に来てもらっている。また、入居直後は、暫定の介護計画を作成し、職員全員が馴染みの関係を築けるよう取り組まれている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に笑ったり、泣いたりしながら、常に人生の大先輩であるという意識を持ち、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いを第一と考え、日々のかかわりの中で、態度や表情から汲み取り把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望、医師からの意見などをもとにカンファレンスを行い、本人の意向や思いに沿った介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行うと共に、現在の介護計画を1週間ごとにチェックして見直しが必要となった場合や、状況に変化が生じた場合は、本人・家族・必要な関係者とその都度話し合い、本人の意向や思いに沿った見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の外出・外泊はいつでも、家族の面会は夜中でも、家族が通院できない時はグループホームで行うなど、本人、家族の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、毎日の訪問診療や24時間体制で対応できる協力医療機関との関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や職員がみんなで看取るという考えのもとに、終末に対する対応指針を定め、全職員が共有している。また、入居時から本人や家族と十分に話し合い、終末期になっても何度も家族との話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレの時、他の人に聞こえないよう耳元で声かけを行うなど、プライバシーに配慮した対応が見られる。また、職員が退職する時に、入居者に関する情報を漏らさないように、誓約書をとるなど秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の入居者の状況に応じた、1人ひとりのペースを大切に支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに入居者の好みを取り入れたり、食材の皮むきなどの下準備や配膳、片付け、茶碗洗いなども入居者と共に行い、一緒に食事を味わいながら、入居者にとって食事が楽しいものになるような支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助を要する入居者は、決まった曜日に入浴されているが、午前中に入浴や寝る前の入浴など入居者の希望に合わせて入浴ができるよう工夫されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編物や縫い物、習字、家事など入居者一人ひとりの役割や楽しみごとを作り出す工夫が見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、散歩、買い物、あるいはドライブなどに出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の気配りや目配りを徹底することで、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応方法については、目につきやすい場所に掲示しており、年1回業者と共に消火訓練は行われているが、入居者とともに行う避難訓練までは行われていない。	○	地域の人々の協力が得られる関係は築かれているので、今後、地域の人々や消防署などの協力のもとに、いざという時に慌てず確実に避難誘導できるように定期的に訓練することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、調理の本等を参考にバランスよく献立されている。また、水分については、特に、むせがあったり、水分を好まない入居者のために、とろみをつけたりゼリーを作ることで、必要量が確保されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感が出るように、実際に家庭で使用するカレンダーや季節の花が飾ってある。東館では、天井からの強い日差しを遮光するために、取り外しのできるゴザをかけた。西館では、昼食時にテレビの音を消し、不快に感じる入居者のための配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使用していたテーブルや椅子を置いたり、仏壇や曾孫の写真を飾るなど、入居者の居心地の良さに配慮されている。		